

【連続シンポジウム】「東京の住宅地」の現在と未来

第4回：時を重ねた郊外戸建住宅地の変質と継承

昨年度、11年ぶりの新版「東京の住宅地 第四版」を発刊した。この執筆者らとともに、人口減少期・東京圏の住宅地における現在と未来を考える連続シンポジウムを開催する。

第4回のテーマは「時を重ねた郊外戸建住宅地の変質と継承」である。郊外の戸建て住宅地は、人口減少や高齢化、住民のライフスタイルの変化等をどのように受け止め、住環境を変質させてきたのか、また継承してきたのか。そして、住宅地の時間経過に計画論がどのように介入できるのか。複数の古い郊外住宅地を取り上げ、第三版から第四版の間の郊外住宅地の変化についても振り返りながら、議論を進めたい。

日 時：2015年10月2日（金）17:00～20:00

会 場：東京大学工学部14号館2階144室（東京都文京区本郷7-3-1）

主 催：日本建築学会 関東支部 住宅問題専門研究委員会

〈プログラム〉

趣旨説明：梅本舞子（幹事／千葉大学）

主題解説：1. 「城南住宅における土地所有の変容と借地組合による住環境運営の変遷」

深見かほり（東京大学）：「東京の住宅地 第四版」執筆者

2. 「郊外戸建住宅地の現在（伊勢原市愛甲原住宅ほか）」

加藤仁美（東海大学）：「東京の住宅地 第三版」執筆者

討 議：コメンテーター・大月敏雄（東京大学）

司会・後藤智香子（主査／東京大学）

参加費：会員 500円、学生 無料、一般 1,000円（当日会場払い）

（資料代別「東京の住宅地 第四版」頒布価格1500円）

定 員：70名（申込み先着順）

申込み：こちらの申し込みフォームからお申し込みください

日本建築学会 関東支部 E-mail:kanto@aij.or.jp TEL03-3456-2050